

防災産業展 など 4 展示会

きょう開幕

東京ビッグサイト



宇宙ビジネスの最前線を体感できる
(2025国際宇宙産業展 ISIEX)

国際宇宙産業展 ISIEX

政府による1兆円規模の「宇宙戦略基金」の設立などを契機に、官民が「一丸となった宇宙ビジネス」の活性化に大きな期待が集まる。

「宇宙」という新たなビジネスステージへをテーマに掲げる「国際宇宙産業展 ISIEX」は、今年5回目。12の企業・団体・大学・研究機関が出展し、宇宙開発に特化したロボットや精密装置、機器を筆頭に、開発・製造・打ち上げのためのインフラや衛星活用ビジネスなど、注目の技術・サービスが勢ぞろいする。日本との研究開発分野での協力を探る欧州宇宙機関(ESA)やイタリア大使館など、海外からの出展もあふれる。

30日10時半からは東7ホール内メインステージでは、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の三保和之経営企画部長が「JAXAの宇宙開発の最新動向と将来展望」と題して講演する。JAXAが進める宇宙開発の近況と民間企業との連携策などについて話す。

ステージプログラム (一部抜粋)

会場：メインステージ 定員：300名 聴講無料

1月28日(水) 13:00~13:50 **グリーンインフラ産業展**

都市と農業の融合が生み出す、新しいコミュニティの形成
～多面的な機能を持つ、都市農業とグリーンインフラ～
AGRIKO代表取締役/俳優 小林涼子氏

1月29日(木) 10:30~11:10 **G空間EXPO**

宇宙と地球がつながるG空間社会の未来へ

宇宙飛行士、国際社会経済研究所CTO、IHIアカデミー長
野口聡一氏

©合同会社未来園

南海トラフ地震や首都直下地震などの大規模地震、気候変動による火災、水害、土砂災害、と、激甚化・頻発化する災害への備えは急務となっている。

「その日」への備えをいまだ考え、防災・減災の当たり前をアップデートする機会となるのが「防災産業展」だ。

同展示会では「防災・減災」によるレジリエンス社会の実現へをテーマに、101社・団体、206小間が出展する。非常用電源としての活用が見込まれる紙電池をはじめ、動力源は不要で生活用水を確保できる災害用井戸、都市型水害対策の要となる止水板など、防災・減災対策に役立つ製品、サービス、技術が一堂に会する。

ドローンやロボット、仮想現実(VR)を活用した分野では、大型のヘリコプター型ドローンや消防ロボット搭載の消防トラックなどが並ぶ。ゲーム企業が東京消防庁と共同開発した防災訓練VRのデモンストレーションも予定されている。

あわせて、企業や自治体迅速に災害対応・復旧するための事業継続計画(BCP)対策向けのソリューションも提案する。

また併設企画として「災害対応・快適トイレ展」を開催。全国の自治体で導入が進むトイレカーやマンホールトイレのほか、平時時の利用はもろろん、断水時には洗浄水を量に切り替えて使用できる水洗トイレなどを紹介する。

東7ホール内メインステージでは、シンポジウムも開かれる。28日15時半からは「南海トラフ地震・首都直下地震の被害軽減に向けて」、29日13時半からは「G空間EXPO」は、理、防災・防犯、自動運転、観光、スマート農業といった幅広い領域での活用事例を通して、G空間のいまとこれからを探る。

東7ホール内メインステージでは、29日10時半から「宇宙と地球がつながるG空間社会の未来へ」と題し、宇宙飛行士の野口聡一氏が講演する。時や場所を選ばずに誰もがG空間情報にアクセスし、高度な分析に基づく最適な行動につなげられる社会への期待を語る。

29日11時半からは「国交省・『建築・都市のDX』の現在地」と題した講演も。日本全国の3次元(3D)都市モデルを整備・オープンデータ化する「PLATEAU(プラトゥー)」をはじめとする国土交通省主導のプロジェクトを中心に、関係部局の担当者がビジョンを語る。

G空間EXPO

「首都直下地震における事業および生活継続」と題して、産官の有識者が語りあふ。

そのほか、大手農機メーカーのブースでは、食品廃棄物を堆肥化して有効活用するバイオ式コンポストを使った取り組みが、実機とともに展示、紹介する。

28日13時から東7ホール内メインステージでは、AGRIKO代表で俳優の小林涼子氏が講演。同氏が展開する都市型農業の事例を交えて、「都市と農業の融合が生み出す、新しいコミュニティの形成」について語る。

また、屋内用遮熱シート「はるクール」は、工場や倉庫、体育館の天井に設置することで輻射熱を反射して室内の温度上昇を抑える。エアコン作動時の消費電力やCO2排出量の削減に貢献する。会場では、設置の有無による遮熱効果の違いを体感できる。

文化シャッターは、水害・熱中症対策をテーマとした気候変動の緩和と適応に貢献する製品を出展する。止水板の「アクアフロート」は、水の浮力により自動で起立・倒伏する仕組みのため、電源が不要で人の操作もいらない。水を使った実演では、製品の止水性能を体感・確認できる。止水パネルシャッターの「アクアフラット」は、浸水高さ最大3層まで対応できる。

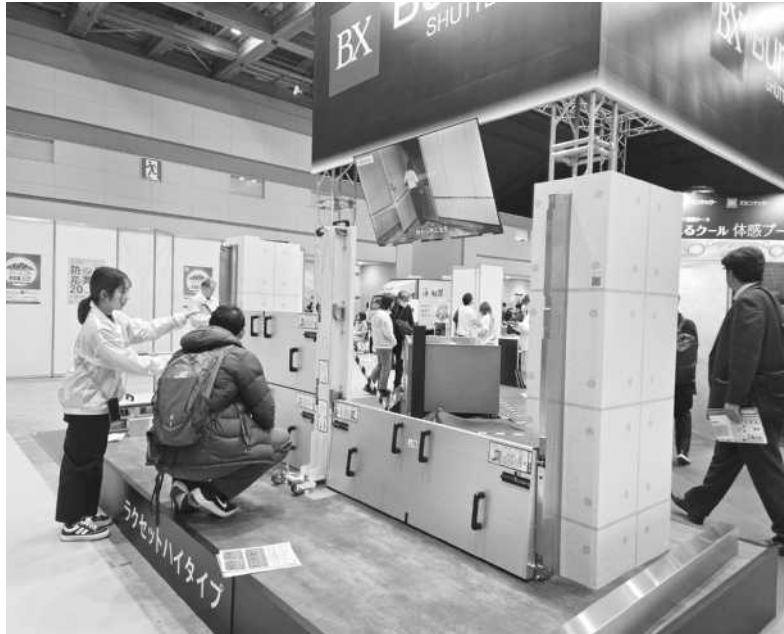
また、屋内用遮熱シート「はるクール」は、工場や倉庫、体育館の天井に設置することで輻射熱を反射して室内の温度上昇を抑える。エアコン作動時の消費電力やCO2排出量の削減に貢献する。会場では、設置の有無による遮熱効果の違いを体感できる。

防災産業展

南海トラフ地震や首都直下地震などの大規模地震、気候変動による火災、水害、土砂災害、と、激甚化・頻発化する災害への備えは急務となっている。

「その日」への備えをいまだ考え、防災・減災の当たり前をアップデートする機会となるのが「防災産業展」だ。

同展示会では「防災・減災」によるレジリエンス社会の実現へをテーマに、101社・団体、206小間が出展する。非常用電源としての活用が見込まれる紙電池をはじめ、動力源は不要で生活用水を確保できる災害用井戸、都市型水害対策の要となる止水板など、防災・減災対策に役立つ製品、サービス、技術が一堂に会する。



最新の防災・減災技術に期待が高まる
(防災産業展2026)

グリーンインフラ産業展

自然環境が持つ機能をインフラ整備に生かす「グリーンインフラ」が注目されている。グリーンインフラ産業展では「持続可能な魅力ある国土・都市・地域づくりに向けて」をテーマに、84社・団体の143小間が出展。カーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)や自然共生社会の実現につながる新たな製品やソリューション、取り組みの数々を披露する。

総合建設企業のアースには、大規模な半自然草原をつくり出す実証フィールドの事例をはじめ、洋上風力発電設備を利用した藻場の再生プロジェクト、未来の養殖・漁場創世構想、棚田の保全に貢献する技術などが集結。初出展となるAI(人工知能)駆使した生物モニタリング自動化技術の実演も予定している。

防災産業展2026

グリーンインフラ産業展 2026



リアル展 1月28日(水)~30日(金) 10:00~17:00
オンライン展 ~2月13日(金)まで

入場登録および詳細は、4展合同サイトから！



BX文化シャッター

いま、備える！

文化シャッターは「エコ」と「防災」をキーワードとしたものづくりと事業を展開、気候変動への緩和と適応に貢献する水害・熱中症対策商品を通して、今後も「人、社会、環境にやさしい多彩なモノづくりで人々の幸せを実現する」という使命のもと、お客様に安心・安全を提供する「快適環境ソリューショングループ」として社会の発展に貢献してまいります。今夏の急なゲリラ豪雨、暑さに備える準備をいまからしませんか？

ゲリラ豪雨の水害対策に！

設計サイズは業界最大のW20m

最大止水高さ 2,000mm

浮力起伏式止水板
アクアフロート

電源不要/水の浮力により自動で起伏し浸水を防ぐ。

押しボタンスイッチで止水状態にできます！

最大止水高さ 3,000mm

止水パネルシャッター
アクアフラット

建物内・地下街などで使用可能な管理用。

文化シャッター株式会社

〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3 ☎ 0570-666-670

防災産業展 2026に出展
2026年1月28日~30日

東京ビッグサイト・東7ホール 小間番号7B-45
「アクアフロート」の水を使った実演、
「はるクール」の遮熱効果の体感ができます。

熱中症対策に！

体感温度が3℃下がる！

屋内用遮熱シート
はるクール

輻射熱を最大97%カット/室内の温度上昇を抑える。
※(一社)環境情報科学センター測定結果報告書による